

平成30年度第2回赤磐市地域医療ミーティング推進協議会

日 時 平成31年3月14日（木） 午後1時30分から午後3時15分まで

場 所 赤磐市保健センター

出席委員 13名（5名欠席） 事務局 市長、保健福祉部長以下7名

協議の概要は以下のとおり。

(1) 研修「あなたもゲートキーパー

～大切ないのちを守るために私たちができること～

岡山県精神保健福祉センター 岡部 佳奈映 保健師

(2) 赤磐市自殺対策計画について

(事務局) 今年度、本推進協議会ワーキンググループを中心に策定した「赤磐市自殺対策計画」について報告及び説明

(3) 意見交換

「自殺予防についてそれぞれができること」

(委員) 他人の家に様子を見に行くことさえ難しい時代になった。自分の地区では愛育委員や栄養委員、その他の団体がスクラムを組んで学んだり、取り組みを行っている。自殺者の発見をした経験がある者にしかわからない感情や思いがある。家庭や仕事、学校（いじめ）等の問題があり、どのような対策をすれば自殺を低迷できるのか。その対策のための組織があるにも関わらず、自殺者が減少しない状況が自分にとっては疑問である。県や市が計画した対策や活動の実施を地区に丸投げになるのはどうかと思う。県を含めてそれぞれの組織が機能しなければ意味がないと思う。

(委員) アンケート結果の「自殺を考えた理由」という中に、「家族関係」「生活困窮」とある。地域での活動の中で色々な人と話をするが、これらのことで困っていることをあまり感じていなかった。表面上の問題としてなかなか上がってこないのではないか。もう少し踏み込めるものがあれば…と感じる。また、気になる家庭（人）について相談すると速やかに動いてくれるところ（組織）があれば、少しは違うのではないかと思う。

(委員) コミュニティーによっては横のつながりがしっかりとできているところもあり、どこの人がどういう状態なのか地域の人同士で情報把握ができています。大人の自殺について心配するようなことは今までほとんどなかった。

(委員) 各地区で100歳体操、地区活動等を行う中で情報を集めている様子もあるが、働き盛りの世代との接触は難しく状況がわからない。

(委員) 新興住宅の場合、コミュニケーションがとれるようになるのに数年かかる。

これからの社会で自殺者をどう減少させていくかは大きな課題だと思う。

- (委員) うつ症状といっても幅が広い病気である。その中で自殺企図の強い症状が出ていて深刻な状態であると(医師として)感じたときは精神科につないだり、かかりつけ医による対応などの早期発見が必要で、最後のセーフティネットとなる。
- (市長) 自殺の根本にあるものはうつ状態であり、自己否定からはじまることが想像できる。地域や行政の精神保健活動の重要性がある。
- (事務局) 市の活動の紹介。「こころの健康相談」事業を県で月1回行っている。その精神科医にある程度の見立てしてもらい、今後の方針について相談でき、必要によって家庭訪問を行っている。市では、精神障害者の家族の会及びご本人の活動実施、通院時に医療機関との連携、社会復帰へ向けての多職種連携等をサポートしている。
- また、保健所の業務としても他にもある。
- (講師) 自殺の危機にある人、今は元気な人の両方に対策が必要である。広く網目を張り、セーフティネットを張ることが重要である。サポーターが一人で何もかもは解決できないので、広く色々な人の力を借りることが必要である。
- (市長) この計画が図や形だけでは意味がないので、どう実践していくかを今後も検討していく。
- (事務局) 地域で気になる人がいれば保健師等につないでいただき、一緒に考えていきたいと思う。